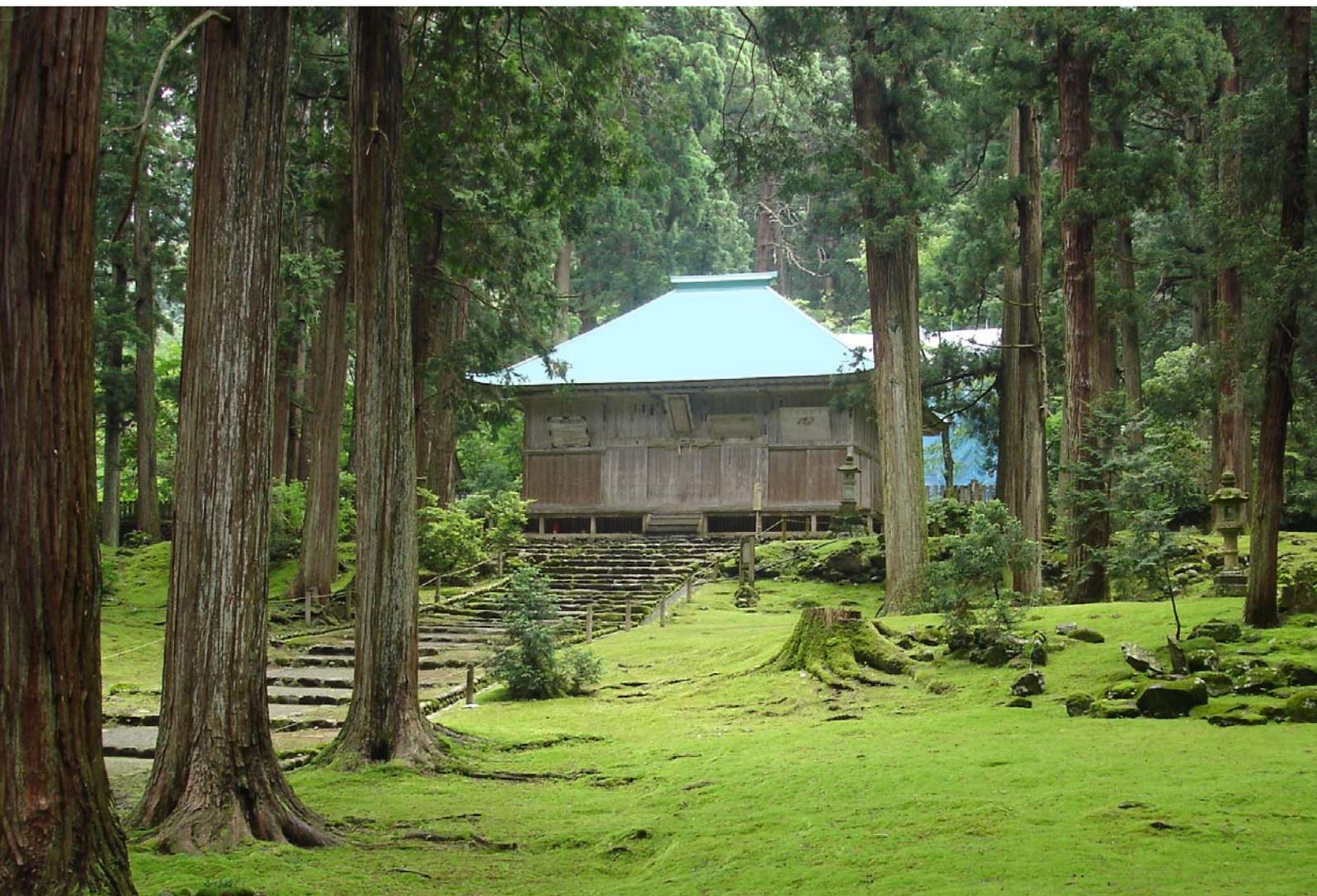


石川県白山自然保護センター普及誌

はくさん

第35巻 第1号



平泉寺白山神社

信仰の山、白山へは平安の頃に、麓から山頂へ連なる道「ぜんじょうどう禅定道」が作られたとされています。禅定道の起点は「ばんば馬場」と呼ばれ白山信仰の拠点となりました。福井県（越前）側の拠点は勝山市にある現在の「平泉寺白山神社」です。白山を開山したと伝えられている泰澄たいちよう大師の生い立ちが記された『泰澄和尚伝記』によれば、泰澄は境内にある「みたらしけ御手洗池」で、貴女（神の化身）のお告げを受け白山を目指したとされ、ここに寺を創建し、池にちなんで平泉寺と名づけたとされています。室町時代後半には、その所領は大野郡（現在の勝山市、大野市）の大半を占め、48社・36堂・6千坊が存在していたと伝えられています。近年の発掘調査で当時の様子が徐々に解明されつつあります。

林立する杉の大木とびっしりと苔でおおわれた境内は独特の雰囲気をかもし出し、いまでもその威風を留めています。

（小川 弘司）

白山のクマ・オコジョの目撃情報

谷野 一道 (白山自然保護センター)



2006 年は前年比急増

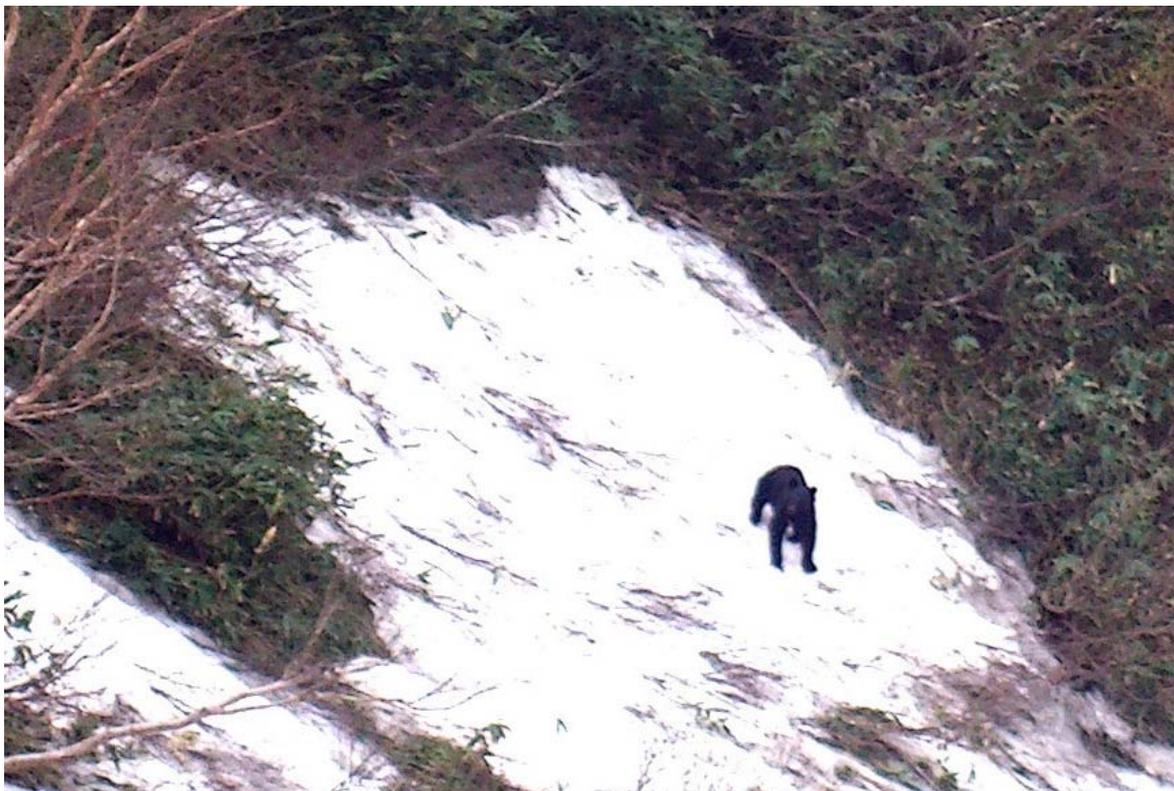
白山の登山基地である白山市白峰の市ノ瀬ビジターセンターは、白山における野生動物の目撃情報を集めています。これまでに収集した情報は開館期間中（5月1日～11月5日）に当ビジターセンターに立ち寄った登山者などから聞き取ったり、石川県白山自然保護センターに寄せられたりしたもので、ほとんどが目撃時の印象が強いツキノワグマとオコジョに集中しています。目撃情報の記録は今のところ2004年から2006年までの3か年のみのため、長期にわたる傾向は分かりませんが、2006年についてはツキノワグマ、オコジョとも前年に比べ大幅に増加しました。



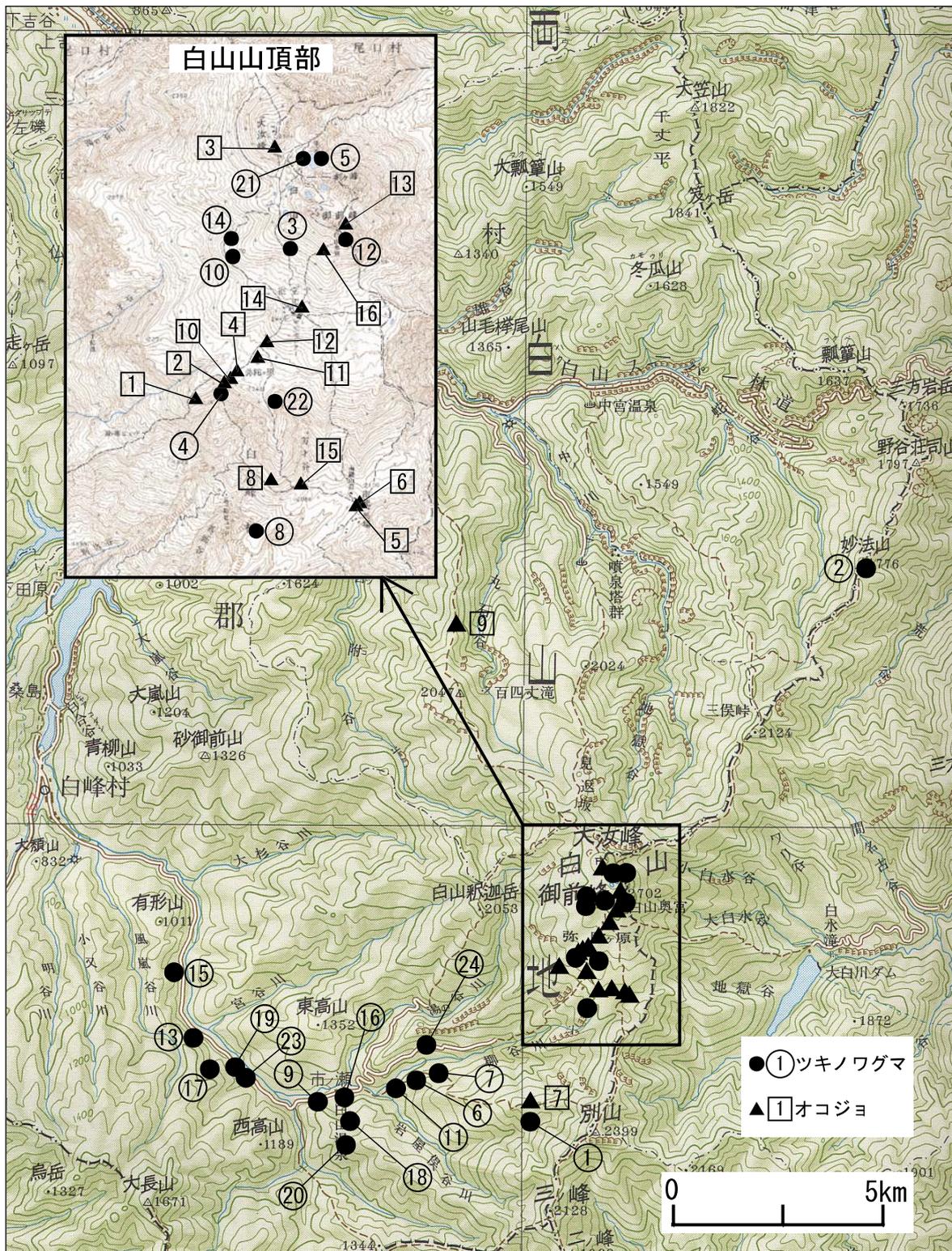
ツキノワグマ 里での異常出没と連動？

ツキノワグマでは2004年に24件だった目撃情報は2005年には6件に減り、2006年は再び24件と急増しました。目撃情報の多かった2004、2006年は里地にもクマが異常出没しており、白山のクマの動向との関連をうかがわせます。

2006年の目撃場所は合計24件のうち、市ノ瀬周辺で8件(図の⑨、⑬、⑯、⑰、⑱、⑳、㉓)と最も多く、次いで山頂・室堂平周辺で6件(③、⑤、⑩、⑫、⑭、㉑)、別山市ノ瀬道で4件(①、⑥、⑦、⑪)、砂防新道2件(④、⑧)、百万貫岩付近(⑮)、エコーライン(㉒)、別当出合(㉔)、北縦走路・妙法山付



チブリ尾根避難小屋付近に現れたツキノワグマ（2006年6月8日）



2006年の白山山頂部及び周辺のクマとオコジョの記録

図中の番号は表中の2006年の目撃情報の番号。

国土地理院発行20万分の1地勢図「金沢」、2万5千分の1地形図「白山」を使用。

白山のクマとオコジヨの目撃情報（2004～2006年）

ツキノワグマ			
番号	日時(2006)	場 所	頭数
1	6/8 12:00	別山市ノ瀬道(チプリ小屋そばの雪渓上)	1
2	7/15	北縦走路(妙法山南方下り道)	1
3	7/31	室堂～千蛇ヶ池間(登山道を横断)	子1
4	8/14 9:00	砂防新道(延命水～黒ボコ岩間)	親子2
5	8/15 12:00	山頂(翠ヶ池を泳いで横断)	1
6	8/26 7:40	別山市ノ瀬道(猿壁登山口から約20分上)	1
7	9/3 15:00	別山市ノ瀬道(下の水場の300m手前)	親子2
8	9/4	砂防新道(碁之助避難小屋の対岸)	1
9	9/6 10:00	白山公園線(市ノ瀬・今宿付近を横断)	1
10	9/7	室堂～千蛇ヶ池(下回りコース中ほど)	1
11	9/10 15:00	別山市ノ瀬道(猿壁登山口から800m上)	1
12	9/15 早朝	御前峰(奥宮付近)	1
13	9/17 12:00	白山公園線(市ノ瀬から白峰方向約4km)	子1
14	9/17 6:30	千蛇ヶ池～水屋尻雪渓間	1
15	9/18 8:55	白山公園線(市ノ瀬から白峰方向約6km)	1
16	9/25 6:30	市ノ瀬(岩屋俣谷探勝路)	1
17	9/27 12:00	市ノ瀬(根倉谷園地のクリの木)	親子3
18	9/27 15:30	市ノ瀬(岩屋俣谷探勝路のクリの木)	1
19	10/10 7:00	白山公園線(市ノ瀬発電所付近)	子2
20	10/12 11:00	市ノ瀬(岩屋俣谷探勝路)	1
21	10/13 9:00	山頂(お池巡りコースの途中)	1
22	10/15 9:00	エコーライン	親子3
23	10/17 5:30	白山公園線(市ノ瀬発電所付近を横断)	子2
24	10/19 6:10	白山公園線(市ノ瀬一別当出合間で横断)	1

オコジヨ			
番号	日時(2006)	場 所	頭数
1	7/12 10:00	観光新道(馬のたてがみ)	1
2	7/31 10:30	砂防新道(黒ボコ岩の下)	2
3	8/1 7:05	大汝峰(上り岩場)	1
4	8/3 11:00	弥陀ヶ原入口	1
5	8/3 6:00	南竜山荘前	1
6	8/18 7:00	南竜山荘前	1
7	8/20 8:00	別山市ノ瀬道(チプリ尾根避難小屋前)	1
8	8/27 12:15	南竜水平道	1
9	9/3	加賀禅定道(奥長倉避難小屋)	1
10	9/9 12:00	砂防新道(黒ボコ岩の下)	1
11	9/17 11:15	弥陀ヶ原	1
12	9/21 15:30	弥陀ヶ原(五葉坂とエコーラインの分岐)	1
13	9/22 11:30	御前峰(方位盤)	1
14	9/22 11:30	室堂(洗面台の下)	1
15	9/24 8:20	エコーライン(上り口)	1
16	9/26 9:00	奥宮参道(高天原)	1

番号	日時(2005)	場 所	頭数
1	6/16 11:00	別当出合(駐車場分岐手前200m)	1
2	6/25	市ノ瀬(岩屋俣谷探勝路上部のブナ林)	1
3	7/16 9:40	別当出合(駐車場分岐手前10m)	1
4	7/18	岩屋俣谷川の谷筋(釣り人が目撃)	1
5	7/20	湯の谷(工事用道路)	1
6	10/25 12:00	白山公園線(緑の村から市ノ瀬方向へ200m)	1

番号	日時(2005)	場 所	頭数
1	7/22 7:00	室堂下の五葉坂	1
2	8/18 10:00	弥陀ヶ原(木道を横切る)	1
3	9/18	砂防新道(碁之助避難小屋付近)	1
4	9/19 14:00	砂防新道(南竜分岐)	1
5	10/6 9:00	砂防新道(碁之助避難小屋入り口)	1

番号	日時(2004)	場 所	頭数
1	4/30	別当出合(吊り橋付近)	2
2	6/15	観光新道(殿ヶ池避難小屋の下)	1
3	6/23	別山市ノ瀬道(チプリ尾根避難小屋の手前)	親子2
4	7/8	観光新道(別当坂分岐～殿ヶ池避難小屋間)	子1
5	7/16	白山公園線(百万貴岩～市ノ瀬発電所間)	子1
6	7/17	釈迦新道(工事用道路)	子1
7	7/19	別山市ノ瀬道(車道)	1
8	7/23	砂防新道(中飯場付近)	1
9	8/6	別山市ノ瀬道(チプリ尾根避難小屋付近)	子1
10	8/12	白山公園線(赤岩付近)	子1
11	9/1	展望歩道の上部	1
12	9/2	湯の谷工事用道路(釈迦新道登山口付近)	1
13	9/3	別山市ノ瀬道(車道)	1
14	9/23	白山公園線(百万貴岩～市ノ瀬発電所間)	子1
15	9/25	市ノ瀬(岩屋俣谷探勝路)	親子2
16	10/1	白山公園線(市ノ瀬発電所～赤岩の間)	1
17	10/3	別当出合(バス回転場所付近)	1
18	10/6	砂防新道(碁之助避難小屋付近)	1
19	10/11	エコーライン	子1
20	10/16	湯の谷工事用道路(トンネル～橋間)	子1
21	10/18	観光新道(殿ヶ池避難小屋～黒ボコ岩間)	1
22	10/23	白山公園線(百万貴岩手前の堰堤)	1
23	10/24	白山公園線(百万貴岩付近)	子1
24	10/28	白山公園線(百万貴岩付近)	子1

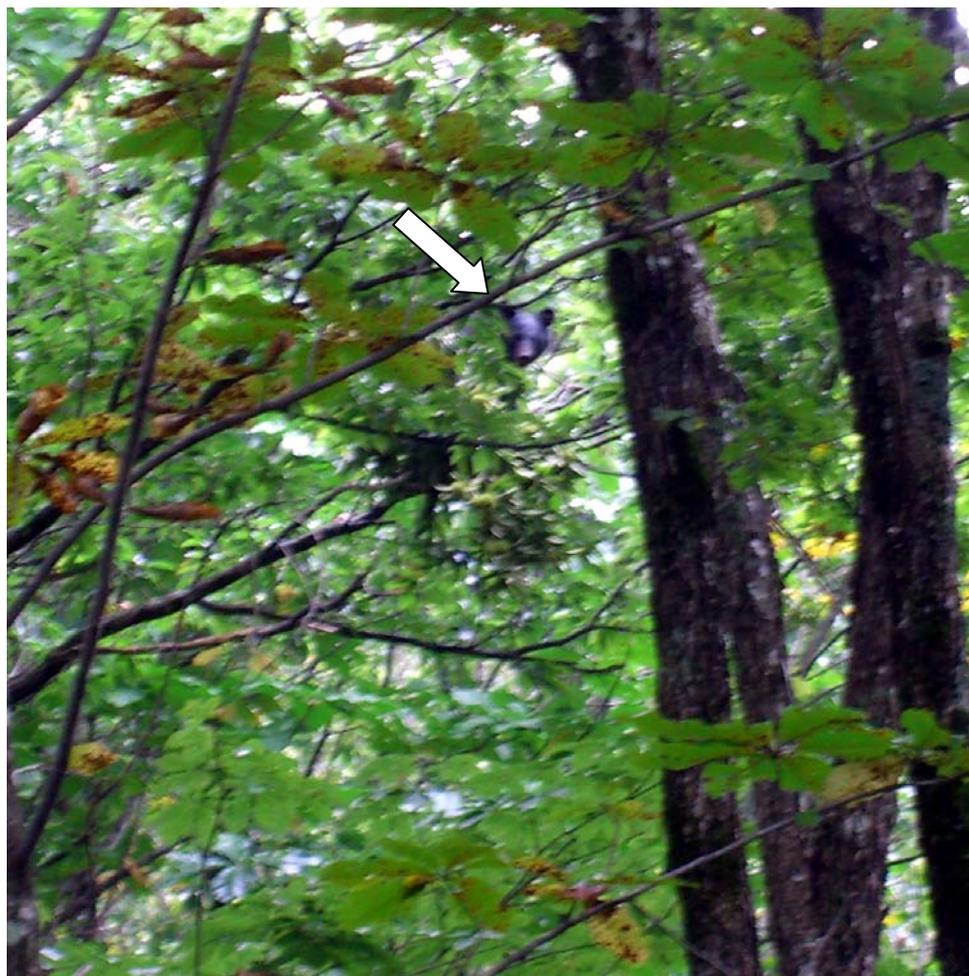
番号	日時(2004)	場 所	頭数
1	7/25	エコーライン(木道)	2～3
2	7/25	展望歩道(展望台の下)	1
3	8/15	南竜一別山道の油坂	1
4	9/10	観光新道(殿ヶ池避難小屋付近)	1

近(②)で各1件となっています(④、⑧)。目撃頭数は合計32頭に上り、うち子グマと思われる個体は12頭でした。親子連れ3頭の見撃例も2件ありました。これらの情報は同じ個体の重複目撃が含まれると思われますが、2006年の特徴は標高2,400mを超える山頂・室堂平付近での目撃が多かったことです。御前峰山頂の白山奥宮のそばや翠ヶ池を泳いでいる姿も目撃されています。

目撃の時期は6月1件、7月2件、8月3件、9月12件、10月6件で、9、10月の秋に集中しています。冬ごもりに備えエサを求めて行動が活発、広範囲になったためとみられ、目撃の多かった2004年も同様の傾向を示しています。

目撃時の状態は登山道や車道を横断したり、道沿いの斜面や対岸にいたり、人に気づいた場合はすぐに逃げ去りました。市ノ瀬周辺ではクリの木に登って実を食べている姿も目撃され、クマ棚も多く見られました。「5、6mの至近距離だった」との見撃談もありますが、鉢合わせとなって襲われたとの報告はありません。目撃者の多くは「ドキッとした」、「こちらへ向かってくるのではないかと怖かった」と、興奮冷めやらぬ表情で話していました。ちなみに過去20年余りの間、白山で登山者がクマに襲われて負傷したケースは報告されていません。

目撃情報が前年に比べ多かった理由については、2006年はブナやミズナラの実が不作だったため、エサを求めて行動範囲がいつもより広がったことなどが考えられます。



市ノ瀬のクリの木に登ったツキノワグマ(2006年9月27日)



オコジョ 目撃は標高 1,700mより上

オコジョの目撃情報は2004年4件、2005年5件でしたが、2006年は16件と急増しました。2006年の目撃場所は弥陀ヶ原・砂防新道（黒ボコ岩）周辺5件(図の②、④、⑩、⑪、⑫)、山頂・室堂平周辺3件(⑬、⑭、⑯)、南竜山荘周辺2件(⑤、⑥)、南竜水平道(⑧)、観光新道（馬のたてがみ）(①)、別山市ノ瀬道（チブリ尾根避難小屋）(⑦)、大汝峰(③)、エコーライン(⑮)、加賀禅定道（奥長倉避難小屋）(⑨)で各1件でした。1か所での目撃数は黒ボコ岩付近で2頭が見られたほかは、いずれも1頭でした。

目撃場所のうち最も標高が低かったのは奥長倉避難小屋で、1,730m。ほとんどは2,000m以上で見つかっています。目撃の時期は7月2件、8月6件、9月8件でした。目撃時の状態は、登山道や山小屋周辺で登山者の目の前に現れ、しばらくその辺を動き回っていた例が多かったようです。目撃者の印象はクマの時とは違い、「かわいかった」「見つけてラッキー」と、白山登山の良い思い出になったようです。特に奥長倉避難小屋の場合は、差し出した登山者の指に鼻つらをくっつけに来るほど人なつっこく、当人はいたく感激したとのことでした。

ツキノワグマ、オコジョとも加賀禅定道など白山の北部では各1件、石徹白道など南部の登山道では目撃情報がありませんでした。これらのルートは登山者の数が少ないうえ、下山に使われることが多く、市ノ瀬に立ち寄って情報を提供する機会が少なかったためと思われます。

以上の目撃情報は提供をいただいたものだけであり、実際はもっと多くの目撃例があると思われます。今後とも白山で野生動物を目撃された方は石川県白山自然保護センターか市ノ瀬ビジターセンターへお知らせください。



チブリ尾根避難小屋前に現れたオコジョ（2006年8月20日）

撮影：渋谷好司氏

白山に登って見て考えて、また登る

木村 芳文 (写真家)



今年の白山は

4月末に県道白山公園線が市ノ瀬まで開通し、今年も白山のシーズンがはじまりました。長年白山を撮ってきましたが、行くたびに、また年ごとに違った表情を白山は見せてくれました。今年の白山はどうなるのか、私は、毎年シーズン初期に予想して、と言ってもなかなか当たるものではありませんが、目標を立てることにしています。



1996年のナナカマドは10年ぶりの紅葉

昨年、2006年の白山では、久しぶりに素晴らしいナナカマド(ウラジロナナカマド。以下ナナカマド)の紅葉を見ることができました。

実は昨年のナナカマドの色付きについて、私はシーズン初期から予測していたのです。予測といっても、学術的な裏付けも何もない、山勘・予感のようなものでした。ただ、今年のナナカマドは行けそうだと思えて仕方なかったのです。

昨年の冬(2005年から2006年にかけて)は、それまでの暖冬傾向から一転して非常に厳しいものがありました。そして2006年のシーズンはじめ、このように気候に大きな変化が生じた後は、例年と違う何かが起こるはずだと私は考えました。



1996年の紅葉 室堂平から御前峰
ナナカマド類は10年ぶりの美しい色付きを見せた

ナナカマドが2006年に匹敵する色付きをしたのは、私を知る限りでは10年前、1996年の秋です。この時は白山全体が真っ赤になったと言ってよいほどの紅葉でした。そしてその後の白山のナナカマドは、部分的には美しく色づくことがありましたが、大部分は紅葉する前にチリチリに枯れて散ってしまう年が続いていました。

白山のナナカマドが美しく紅葉した1996年の冬季は、非常に雪が多く厳しい冬でした。1995年の11月4日～5日の山行記録を見ると、別当出合で積雪20cm、甚之助避難小屋で50cm、弥陀ヶ原からは完全な冬景色であったと記されています。そして11月中に県道白山公園線が冬季閉鎖され、登山口の市ノ瀬へ行けなくなりました。

この冬は、年末から年始にかけての厳冬期の白山にはじめて入山した年でもありました。記録を見ると市ノ瀬から室堂に到達するまでに4日を要しています。想像を絶する厳しい山行でした。そのころの私は冬でもほぼ毎週山に入っていました。その厳冬期の白山から帰ってきた後は、4月まで登山はしませんでした。雪との格闘に疲れてしまいました。

そしてその厳しい冬が終わった年、ナナカマドが素晴らしい色付きを見せました。2006年のナナカマドの色付きは、この事に重ね合わせて予感していたわけです。



2007年のコバイケイソウはどうなる

写真のコバイケイソウの大群落は、1997年の夏に撮影したものです。ナナカマドが素晴らしい色付きを見せた翌年のことです。この年は白山の何処へ行ってもコバイケイソウが花盛りでした。

コバイケイソウは花の数に多寡があることが知られています。決まった年数ごとに咲いたり咲かなかったりするわけではなく、不作の年が続くこともあります。咲いた年でも花の量が多かったり少なかったり、その予測は結構難しいものがあります。

この年以来、コバイケイソウの花の咲き方は、多い年もありましたが、この時に比べるといつも見劣りがするものでした。

図を見てください。みなさんはどのように思いますか？

私は今年のコバイケイソウの花付きに、何か変化が現れるのではないかと考えています。10年に一度のコバイケイソウの大群落を見ることが出来るかもしれません。半分は私の願望です。大法螺吹きの汚名をかぶることになるかもしれませんが・・・

コバイケイソウの葉や花穂の準備は、前年中に終わっているそうです。この原稿が皆様の手元に届くころには、コバイケイソウの芽吹きもはじまっているでしょう。白山に登れば私が大法螺吹きかどうか、わかることになります。

2007年のコバイケイソウの予想

1995年	多雪、厳しい冬	2005年	多雪、厳しい冬
1996年	ナナカマドが美しく色づく	2006年	ナナカマドが美しく色づく
1997年	コバイケイソウが豊作	2007年	今年の夏はどうなる？豊作！



1997年のコバイケイソウ（北弥陀ヶ原）
この年は白山全域でコバイケイソウが多くの花を咲かせた



手取川

最近手取川をテーマに写真を撮っています。

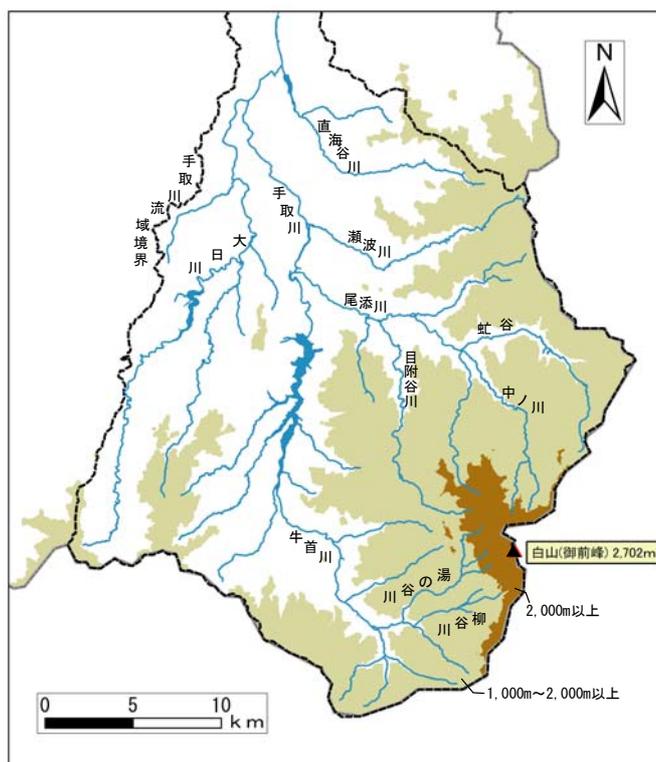
私は白山を撮って20年近くになります。最初は県外から白山に通っていたのですが、2000年に金沢市に、昨年2006年には白山山麓の村（今は白山市）に転居し、日々の暮らしで常に白山を意識できるようになってきました。反対に白山に登り足下を流れる雪どけ水の行方を考えると、自然と日常の暮らしに思いが移っていきます。自分の生存を保障する水が足下から流れ出しているのです。

手取川は石川県を代表する川であるとともに、その流域の大部分を白山地域が占め、白山を代表する川でもあります。そして、白山の恵みの多くが、手取川を伝わってやって来ます。手取川は白山の恵みを分かち生命の川です。白山を表現していく上で、手取川は非常に重要な要素であると考えています。

手取川の最初の一滴は何処にある

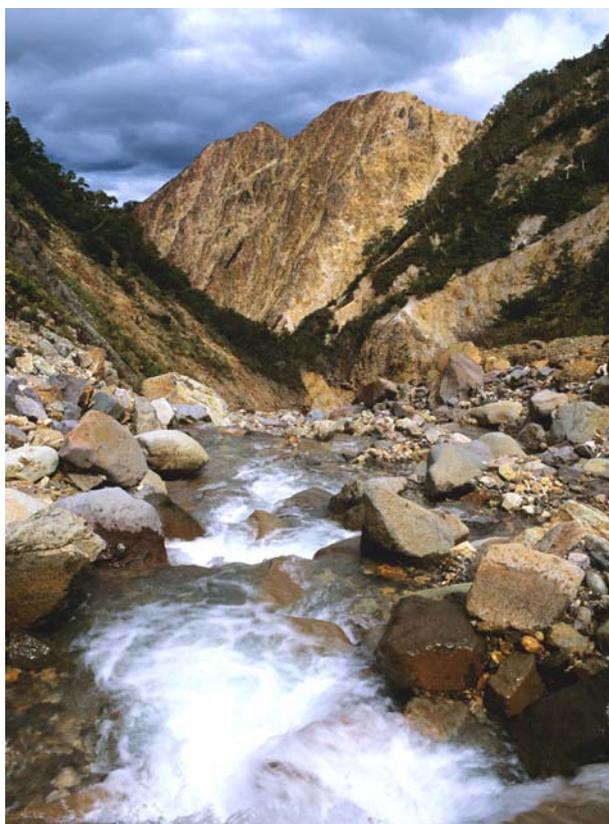
「手取川はその源を白山に発し・・・」といった文章はよく見かけますし、この事については、反対する人はいないと思います。しかし、それを写真で表現しようとする、何処で何を撮るかという現実的な問題に直面します。

一言で白山といっても非常に広く、山頂付近に限っても、手取川の支流である中ノ川、柳谷川、湯の谷川が集まってきています。地理学上では手取川の本流は決まっているのかもしれませんが、私の目的は白山と手取川そして私達の有機的なつながりを写真で表現することなので、別の考え方が必要になってきます。



白山水系図

白山山頂付近には、手取川の支流である中ノ川、柳谷川、湯の谷川が集まっている



中ノ川地獄谷源流部からの火の御子峰
地獄谷は、非常に荒れ果てた谷である

中ノ川の上流の地獄谷

中ノ川は、手取川支流の尾添川の源流で、白山の大汝峰に源を発します。

中ノ川はさらに上流部で地獄谷と仙人谷に分かれ、大汝峰の北端に立つと、足下から地獄谷の谷底まで切れ落ち、白山北部の山々から手取川扇状地までながめることができます。ここは足下から手取川の流りがはじまっていると、視覚的に実感することができる場所です。

ただし、地獄谷は崩壊が激しく、その水は火山性物質が溶け込んで常に飲むのがためられるほど濁っています。生命の川という印象からはほど遠いものがあります。

柳谷川上流の万才谷

柳谷川は、市ノ瀬から白山の代表的な登山口である別当出合に向かう県道白山公園線に沿って流れる川で、別当出合からは柳谷川上流部にかかる、上段約45m、下段約60mの2段になった不動滝が見えます。万才谷は、この不動滝の上流から室堂平に通じる谷です。

巨大な万才谷雪渓は、エコーラインからよく見えます。室堂からトンビ岩や平瀬道方面に向かうときには万才谷の源頭部を横切りますがここにも大きな雪渓が残ります。

右の写真は万才谷の源頭部から御前峰を撮ったものです。このように万才谷は白山の最高峰の御前峰から流れ出ていると言えます。ただし、付近で水流が確認できるのは夏の限られた時期だけです。初期は雪原になっています。雪渓が融けてしまうと賽の河原状の岩礫地になって、ここに水が流れていたことを想像するのは難しくなります。それと、別当出合や中飯場から不動滝より下流部に見える砂防工事がイメージを損なっているのは否めません。



万才谷雪渓の最上部から 御前峰
付近で水が流れるのは、雪渓が融けかかった一時期だけ

湯の谷川上流の水屋尻

水屋尻雪渓は、黒ボコ岩付近から御前峰の左下によく見えます。また、室堂からお花畑コースを数分歩いたところにある広大な雪渓が水屋尻雪渓の最上部にあたります。

雪渓が融けると、ハクサンコザクラやクロユリ、コバイケイソウなどが、白山の最高峰である御前峰をバックに咲きます。



水屋尻から 御前峰
雪渓が融けると水流も消えるが、沢状の地形は確認できる

湯の谷川上流の千才谷（千蛇ヶ池）

白山釈迦岳から白山を見ると、御前峰の右下に大きな滝が見えます。この滝が千才谷にかかる千仞滝です。千才谷は御前峰の北側にある千蛇ヶ池に通じています。その雪渓は一年を通じて融けてしまうことはないと言われています。そして概ね7～8月初旬の間は、雪どけ水が水流となって流れてゆくのが見ることができます。千才谷は白山の中でも最も標高が高い位置で、水流を確認できる谷です。

千蛇ヶ池の背後には、御宝庫と呼ばれる岩峰がそびえ、千蛇ヶ池に蛇を閉じこめたという伝説の舞台になっています。



千蛇ヶ池と御宝庫
この雪どけ水は千才谷に流れ込む。千蛇ヶ池の直下から沢状の地形は顕著である

湯の谷川最源流の五色池

千蛇ヶ池の北側の五色池付近は比較的遅くまで雪渓が残り、この雪渓の融けた水は、湯ノ谷川の最源流に流れ込みます。水流は千蛇ヶ池と同程度の高さで生まれています。またその位置は白山山頂部の中心付近であると言えます。湯の谷川の最も上流部に水流が流れこむという点も大きなポイントです。ただし沢状の地形はそれほど顕著ではなく、雪が融けてしまうと普通の礫地になってしまいます。



五色池付近の雪どけ
この水は湯の谷川の最上流部に流れ込む



ふたたび手取川の最初の一滴は何処にある？

実は、私の中でもまだ答えは出ていません。どちらかという、湯の谷川が手取川の最源流部として相応しいと考えていますが、それ以上は絞り込めていない状態です。

写真はあらゆる要素の中から限られた部分を切り取り、人にメッセージを伝えるものです。

手取川の最初の一滴、白山の水を、1枚の写真で人に伝えなければならないとしたら何をどう撮るか。もっと白山を歩いて、白山の理解を深めれば答えが出るかもしれない。私はそう考えて白山に登っています。



白山釈迦岳付近からの白山西面
手前の谷は湯の谷川で、白山西部の水はすべて湯の谷川に流れ込む



見えた、でかい、3頭も

白山まるごと
体験教室

「ツキノワグマを探そう」

白山まるごと体験教室「ツキノワグマを探そう」は5月13日、白山市白峰の市ノ瀬ビジターセンターで親子連れら 30 人が参加して行われました。観察地点では3頭ものクマを観察でき、参加者は大喜びでした。

参加者は白山自然ガイドボランティアらの案内で釈迦新道を2km余り歩いて観察地点に到着。湯の谷を挟んで対岸の草地を中心にクマの姿を探しました。すぐに草地で若草をほおぼる2頭を発見、続いて近くのブナの木に登って花芽を食べているもう1頭を見つけました。参加者のほとんどは野生のクマを見るのは初めてで、双眼鏡を手に「見えた、見えた」「でかいぞ」などと興奮気味でした。

ビジターセンターに帰った後は白山自然保護センターの林哲主任研究員からツキノワグマの生態などについて話を聞き、白山の豊かさや「隣人」としてのクマとの付き合い方などに理解を深めました。



ブナの木に登って花を食べるツキノワグマ。見やすいところに現れると、その真っ黒い姿は一目でクマとわかります。



草地で若草を食べながらゆっくり移動していました。



「キバ、すごいね」。クマの骨に見入る参加者



頭骨標本なども使ってツキノワグマの体や生態などについて講義が行われました



はくさん 山のまなび舎だより

中宮展示館のキャラクター・いぬわし君

白山自然ガイド
ボランティア

伝えよう、白山の自然

第3期養成講座スタート



解説活動に挑戦する受講者

白山自然ガイドボランティアの第3期養成講座の1回目が5月19、20日、白山市白峰の白山国立公園センターで約20人が参加して開かれ、インタープリテーション（自然解説活動）を講義と実習で学びました。

受講者は30代から60代で、市ノ瀬や中宮での自然解説を目指す人たち。岐阜県立森林文化アカデミーの小林毅氏らを講師に、初日はインタープリテーションの意義やねらいについて講義を聞きました。2日目は実習で、2人1組で解説の素材を選び、実際に解説活動を試みました。

講座は全3回で、6月10日と7月1日にも行われた後、受講者はボランティア活動に携わります。

マニュアルの活用を

今年度第1回研修講座

活動中の白山自然ガイドボランティアを対象にした研修講座の平成19年度第1回が4月14日、白山市白峰の白山国立公園センターで行われました。

今年度の活動計画が報告された後、昼食時は周辺で採取した山菜で味噌汁を作って食べました。

午後は雨天のため、予定して野外実習は出来ませんでしたが、ボランティアの皆さんに配布されている「白山自然ガイドマニュアル」を取り上げ、これを活用した自然解説の進め方について勉強しました。



自然解説の進め方について学ぶ受講者

ガイドウォーク
のお知らせ



5月～10月の土、日、祝日の午前9時～正午、午後1時～3時の1、2時間。
無料 事前申込み不要 団体（20人程度）の場合はあらかじめご連絡下さい。

市ノ瀬 集合場所：市ノ瀬ビジターセンター（0761-98-2504）

内容：ブナ林や白山の展望などを楽しむことができます。

中宮 集合場所：中宮展示館（0761-96-7111）

内容：春の草花、夏の清流、秋の紅葉などを楽しむことができます。



ブナオ山観察舎のキャラクター・かもちゃん

しぜん もりだくさん

連日、クマ出現

18年度のブナオ山観察舎

平成18年度のブナオ山観察舎は平成18年11月20日から平成19年5月6日まで開館しました。来館者は2,165人に上り、白山の野生動物などを観察していただきました。

今シーズンは豪雪だった前年度に比べ暖冬で、雪は少なめでしたが、ブナオ山の斜面にはニホンカモシカ、ニホンザル、イヌワシ、クマタカなど、おなじみの顔ぶれが観察されました。4月末からは連日、ツキノワグマも姿を見せ、来館者の目を奪いました。このほか、イノシシ、キツネ、テン、野鳥ではノスリ、サシバ、アオゲラ、アカゲラなども観察されました。

かんじきをはいて雪の森を歩く「かんじきハイキング」やミニ観察会にも多くの参加があり、白山麓の冬の自然を体験していただきました。

平成19年度は11月20日から開館する予定です。ぜひお越しください。



草地に現れたツキノワグマ（5月4日）



かんじきハイキングで雪上りレーを楽しむ（2月18日）

お知らせ

県民白山講座

白山と登山者

日時：8月25日（土）13:30～16:00
会場：県立生涯学習センター
定員：200名
内容：白山の登山者の利用動態に関して行われた最近の調査結果を紹介し、白山の保全のために登山者が出来ることを考えます。

里山の暮らしと身近な生き物

日時：11月10日（土）13:30～16:00
会場：白山市民交流センター
定員：100名
内容：里山の変貌はそこを住処としていた身近な生き物の生息にも影響を及ぼしていることを紹介。

白山まるごと体験教室

化石で探る太古の白山

日時：7月29日（日）9:00～15:00
集合場所：白山自然保護センター（白山市木滑）
定員：30名
内容：化石や地層を観察して太古の白山について考えます。

秋の音、ネイチャーコンサート

日時：9月22日（土）13:30～16:00
集合場所：中宮展示館（白山市中宮）
定員：50名
内容：鳥のさえずりや川の音そして野外での演奏。自然の中に浸りいろいろの音を楽しみます。

トチノキとトチモチ

日時：10月14日（日）9:00～15:00
集合場所：市ノ瀬ビジターセンター（白山市白峰）
定員：30名
内容：トチノキ観察とトチノキの実をトチモチとして食べるまでの苦労をすこしだけ体験。

白山麓里山・奥山ワーキング

中宮道草刈りボランティア

日時：7月14日（土）9:00～15:00
集合場所：中宮温泉（白山市中宮）
定員：50名
内容：草刈り作業の体験を通して、白山の環境保全について理解を深めます。

河原山カキもぎボランティア

日時：10月28日（日）10:00～15:00
集合場所：白山自然保護センター本庁舎（予定）（白山市木滑）
定員：50名
内容：放置されたカキをもぐ作業を行い、サル・クマの人里への侵入防止に役立ちます。

申込み・問合せ 県民白山講座は申込み不要です。白山まるごと体験教室、白山麓里山・奥山ワーキングは電話で当センター（0761-95-5321）までお申込み下さい。定員に達し次第締め切ります。

センターの動き（4月1日～6月30日）

- | | | | |
|---------|-----------------------------------------|------|-------------------------------------------------|
| 4.14 | 白山自然ガイドボランティア研修講座第1回
(白山国立公園センター) | 6.3 | 平成19年度白山外来植物除去作業ボランティア研修会
(金沢市) |
| 4.19 | 平成19年度白山自動車利用適正化連絡協議会
総会 (本庁舎) | 6.8 | 白山市健康づくり推進員美川すこやか会案内
(中宮展示館) |
| 4.23 | 金城短期大学美術学科講演 (白山市) | | 希少外来種問題検討会 (金沢市) |
| 4.28 | 中宮展示館・市ノ瀬ビジターセンター開館 | 6.10 | 白山自然ガイドボランティア養成講座第2回
(市ノ瀬ビジターセンター) |
| 5.5 | ブナオ山観察舎閉館 | 6.16 | 県民白山講座「白山登山と高山植物の集い」
(白山市) |
| 5.12 | あなたもブナの木を育てましょう講師
(中宮展示館) | 6.20 | 石川県白山麓別当谷安全協議会総会 (白山市)
白山夏山登山遭難事故対策協議会 (白山市) |
| 5.13 | 白山まるごと体験教室「ツキノワグマを探そう」
(市ノ瀬ビジターセンター) | 6.24 | 石川県の自然セミナー講師 (金沢市) |
| 5.19-20 | 白山自然ガイドボランティア養成講座第1回
(白山国立公園センター) | 6.25 | 東三河自然観察会案内 (中宮展示館) |
| 5.26-27 | 白山スーパー林道ウォーク (中宮展示館) | | |

編集後記

本号では、当センター職員が昨年の白山におけるクマ・オコジョの目撃情報を取りまとめ報告しました。昨年は人里へのクマの出没が問題となりましたが、白山の山の上までクマが出没していたことがこれによってわかります。オコジョは白山の高山域が夏場の主な生息場所ですが、なかなか逢えるものではなく、目撃された方はうらやましい限りです。この報告は、皆さんからの貴重な情報により成り立っています。クマやオコジョの生態を解明していく上で、これからも情報提供をお願いします。

山岳写真家の木村さんには、白山に登り、写真を撮り続けて感じていることを、写真と文とで紹介していただきました。木村さんは、多い年には年間100日も白山に登っているそうです。その通い続けた中で撮られた写真には、人の心に語りかけてくるものがあるのではないのでしょうか。残念ながら本誌では白黒写真でしか紹介できませんが、PDFファイル版をカラーで作成し、当センターのホームページ上で公開しています。カラー写真になったものもご覧になってください。

白山自然保護センターでは白山の自然誌27「白山の生いたち」を発刊しました。白山地域の2億年を越える生いたちについて紹介しました。白山の生いたちを一般向けにまとめたものはこれが初めてです。ご希望の方は、当センターの各施設で配布しているほか、送料（140円切手）を負担していただければ郵送しますので、当センターまで申込み下さい。(小川)

目次

表紙 平泉寺白山神社	小川 弘司 ... 1
白山のクマ・オコジョの目撃情報	谷野 一道 ... 2
白山に登って見て考えて、また登る	木村 芳文 ... 7
はくさん 山のまなび舎だより	谷野 一道 ... 13

はくさん 第35巻 第1号 (通巻143号)

発行日 2007年6月30日 (年4回発行)
編集発行 石川県白山自然保護センター
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4
TEL. 0761-95-5321 FAX. 0761-95-5323
URL <http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/>
E-mail hakusan@pref.ishikawa.lg.jp
印刷所 前田印刷株式会社